

ホームページ制作 見積もりチェックリスト

相見積もりを比べる前に確認する25項目 | 株式会社ニュートラルワークス（QUERY編集部）2026年版

A. 依頼時にそろえる前提（全社に同じ内容を渡す）

☐	サイトの目的と、公開後に成果として見る指標を一文で書いた	例：問い合わせ月〇件、採用応募〇件
☐	ページ一覧（サイトマップ案）と、個別デザインにしたいページを指定した	制作側は「型の数」で見積もる
☐	必須の機能と、あればうれしい機能を分けて書いた	フォーム分岐・検索・多言語など
☐	予算の上限（初期・月額それぞれ）と希望納期を伝えた	稟議の上限は初期と月額で別
☐	ロゴ・写真・原稿・既存サイトのデータなど、手元の素材を一覧にした	

B. 見積書を受け取ったら確認する

☐	「一式」の中身が項目で示されている（別添があるなら受け取った）	当社の100万円以上の案件は明細10行以上が普通
☐	各項目が「数量×単価」で書かれ、人日・ページ数が分かる	
☐	ディレクション費の中身（打ち合わせ回数・設計書・窓口）が分かる	当社では全体の2〜3割が目安
☐	デザイン案の数と修正回数、超えた場合の単価が書かれている	
☐	個別デザインのページと、テンプレート流用のページの内訳がある	
☐	CMSで自社更新できる範囲（投稿タイプ・項目）が分かる	
☐	原稿作成・撮影・素材購入が含まれるか、含まれないなら誰が用意するか	当社の明細に入るのは原稿9%・撮影3%
☐	リニューアルの場合：既存データの移行・301リダイレクト・CMS操作マニュアルがある	当社でも6件に1件しか明細に出ない＝抜けやすい
☐	SEO設計（title・meta・構造化データ）と計測設定（GA4・タグ）の有無	オプション扱いの会社が多い
☐	検証（ブラウザ・実機）と公開作業がどちらの担当か	「納品はHTMLまで」の場合もある
☐	公開後の保守の月額と対応範囲、最低契約期間	年間総額で比べる
☐	「今回やる分」「追加費用になりうる分」「将来やる分」が分かっている	
☐	支払い条件（着手時・検収時の割合、分割の可否）と見積有効期限	
☐	備考に「含まれないもの」が書かれている	撮影・素材実費、確定後の大幅変更など

-
- ☐ 成果物の著作権・利用権、契約形態（請負か準委任か）
-

C. 比べるとき

- ☐ 合計ではなく、同じ項目同士で並べた（作業範囲・ページ数・修正回数・素材・保守・体制）
-
- ☐ 極端に安い／高い見積もりは、理由を質問して確かめた
-
- ☐ 提案書が自社の課題に合っているか（一般論だけになっていないか）
-
- ☐ 質問への返事の速さ・分からない点を確認してくれるかを見た
-
- ☐ 口頭で合意したことを文書に残し、契約書に反映されているか確認した
-

出典：株式会社ニュートラルワークスの受注案件507件（2023～2026年）の見積明細集計、および見積書2件の構成。QUERY「ホームページ制作の見積もりの見方」 <https://n-works.link/blog/webdesign/website-estimate>